

【森林技術部門】

QGIS の業務活用に向けた取組

香川森林管理事務所 総務グループ係員 ○手塚 和仁
業務グループ係員 伊佐 林里子
総務グループ係員 佐藤 ひより

1 課題を取り上げた背景

QGIS は、オープンソースソフトウェアとして公開されている GIS（地理情報システム）です。QGIS を活用することで業務効率の向上が期待できますが、現状では QGIS を活用できている職員はわずかであり、限られた人のみが高度な技術を持つ属人化が進行していると推察されます。そこで私たちは、QGIS を香川所で使用してみながら、その活用や普及に何が必要かの検証を行いました。

2 取組の経過

まず、QGIS 活用率の調査及び普及に当たっての課題を明確化するためアンケート調査を実施しました。調査は、Microsoft Forms を用いて、四国森林管理局管内の全職員に対して周知し、うち 204 名の回答を得ました。

次に、香川森林管理事務所にて QGIS 活用率の上昇を目的に所内職員向けの勉強会を開催しました。勉強会は、地物の追加・閲覧や距離・面積の計測等についての基本編とジオリファレンスや標高断面図の表示等についての応用編の 2 回開催し、応用編では局計画課の職員に講師を依頼し操作方法を学びました。

勉強会終了後に所内で再度アンケート調査を実施し、勉強会前後における QGIS に関する職員の意識変化について調査しました。



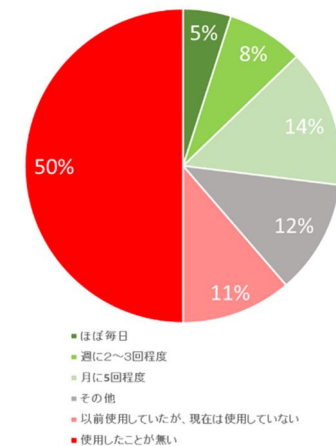
(写真 1：第 1 回勉強会 基礎編)

3 実行結果

アンケート調査の結果、四国森林管理局管内の職員のうち、QGIS を使用したことが無い職員が 50%、以前使用していたが今は使用していない職員が 11%という結果が得られました。QGIS に対するイメージの調査では、約半数の職員が QGIS は便利そうだと回答しましたが、約 7 割の職員が QGIS は難しそうだと回答しました。

一方、勉強会後に所内職員へ実施したアンケートでは、4 割の職員の QGIS 使用頻度が増加し、8 割の職員の QGIS に対するイメージが向上したことが確認できました。

(グラフ：四国局職員の QGIS 使用頻度)



4 考察

勉強会前後のアンケート結果や当所の取組における実感から、QGIS を活用していない職員が半数を超えている要因は、業務上で使用する機会がないこと、教えられる職員が少ないこと、操作が難しく覚えるのに時間がかかるというイメージが定着していること等が考えられます。そこで、QGIS 活用普及のためには、幅広い業務での活用方法を発信すること、マニュアル等を作成し他人に教えるためのハードルを低くすること、QGIS 活用による簡易化や時間短縮になることを発信し悪いイメージを払拭すること等が必要であると考えます。しかしながら、勉強会後も習熟が不十分であることや機会の無さを理由に、QGIS を活用していない職員が存在しました。そのため、技術や知識を知ってもらうだけでなく、使用するハードルを低くするために職員が互いに質問しやすい雰囲気を作り、組織全体で QGIS を活用していくことが重要であると考えられます。